

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 最優秀賞

「土石流災害の恐ろしさ」

鹿児島県 鹿児島市立伊敷台中学校 1年 なかむら はるか 陽香

「熱海土石流、死者 19 人に」

ある日の朝、新聞を手にするのと、こんな見出しが目飛び込んできました。なぜこんなに多くの命がうばわれてしまったのか、どんなことが起きたのかなど、いろいろな考えが私の頭の中をめぐるしました。新聞記事をくわしく読んでみると、7月3日の午前10時30分頃に静岡県熱海市の伊豆山地区で土石流が発生したこと、住宅が流されたり、多くの人が亡くなったりしたことが分かりました。さらに記事を読み進めると、土石流が発生した場所は、ハザードマップで、土石流が発生する恐れがあると認められた「土石流危険渓流」だったといえます。自然災害に対する対策はなかったのか、なぜ危険な場所だと分かっているのに早めの対策がとられなかったのかと私の中で再び疑問がわいていきました。

もし、このような災害が起こってしまったら一。私の住んでいる鹿児島県では何か、対策や防災施設などがあるのだろうかと思い、考えてみました。すると、昨年訪れた桜島の桜島国際火山砂防センターを思い出しました。土石流による被害を無くすために、どんなことを行っているかをこの施設では学びました。

学んだことの1つ目は、ワイヤーによる土石流の検知です。これは、3本のワイヤーで土石流の発生や規模を検知し、情報を送るというものです。私は、このような仕組みがあることを知り、素早く、簡単に土石流を検知することができれば、少しでも速く土石流に備えることができたり、下流にいる人々への避難をうながし、被害を防ぐことができたりするのではないかと思います。それに、このような簡単な仕組みであれば、多くの所に設置することが可能ではないでしょうか。

2つ目は、自然な川の形を変えた砂防の整備です。私は、その内の1つである野尻川を見学しました。この川の整備は、川幅を広げ直線的にすることで、土石流を安全に海へ流せるようにしています。このような対策があれば、土石流による被害を少しでも無くすことができると思いました。しかし、このような形を変えた川や砂防ダムなどは安全性は高くても、工事費がかかってしまったり、工事期間がかなりかかってしまったりするなどの課題もあるのではと考えました。

私は、この施設を訪れたときに、パソコンで土石流の映像を見たことが印象に残っています。山の頂上部分からごった水と土砂が勢いよく流れてきていて、とても恐ろしいと感じました。そして、このような土石流が住宅をおそってきたら、住宅の倒壊などの被害、人的被害もかなり大きいのではないかと考えました。また、土石流などの被害あわれた方々は、身体的なダメージだけでなく、経済的なダメージもかなりあるのかもしれないと感じました。

土石流などの自然災害の恐ろしさを知り、自分達の備えも大切だと思いました。そこで、私の住んでいる地域のハザードマップを改めて見直してみました。すると、私の家から数メートル離れた所まで、急傾斜地の崩壊の警戒区域に指定されていることが分かりました。すぐ近くまで、命の危険が迫っているのだと考えると怖くなりました。また、近くで土砂災害が起こる可能性があるということは、自分も被害に巻き込まれることもあるのかもしれないと思い、日頃から災害に対する備えが必要だと感じました。例えば、家族と話し合ったり、最寄りの避難所を確認したりすることが大切だと思います。

このように、1人1人が自分の身に起きる可能性のある災害をしっかりと理解し、いざというときにとまどったり、困ったりすることがないようにしてほしいです。そして、大切な命は、周りの人と協力して守ってほしいです。だれか1人の防災意識や、災害に備えようという気持ちと行動によって、周りの人の意識を変えることができるかもしれません。今回の熱海の土石流は予測不可能だったけれど、この災害を教訓に、2度と同じような尊い命が失われることがないように私は願っています。